

はりまや町一宮線(はりまや工区)まちづくり協議会 設立趣意書

はりまや町一宮線(はりまや町～比島町)は、新たな高知のまちづくりとして高知県と高知市が一体となって取り組んで来た高知駅周辺都市整備の連続立体交差事業と土地区画整理事業に関連して位置付けられた唯一の南北幹線道路です。

平成18年に産業道路から高知赤十字病院の通りまでの「比島工区」が、平成20年に高知赤十字病院の通りから高知駅前の通りまでの「区画整理工区」が完成しています。

残りの高知駅前の通りから電車通りまでの区間である「はりまや工区」については、事業当初の設計段階である平成13年に、新堀川の生態系調査を行ったところ、絶滅危惧種であるシオマネキ等の生息が確認されたことから、地域の方や専門家の方と一緒に、希少種の保全や自然環境と共存する道路整備について検討を行い、また景観や文化的な視点からも提案をいただいて、平成15年から工事に着手いたしました。

しかし、平成17年頃から、新堀川の水辺空間が大切であるという声が高まり、はりまや工区のうち、「高知駅前の通りから小学校北側の交差点」までの区間は、平成23年3月に完成しましたが、残りの「電車通り」までの区間については、工事を一旦中断し、自然環境の推移や周辺の交通量の調査を継続して行ってきました。

このたび、今まで行ってきた環境調査や交通量調査のデータが一定期間蓄積されたことなどから、この結果について県民の皆様にお示しするとともに、はりまや工区の果たすべき役割について、さまざまな立場の方からご意見をいただく時期が来たのではないかと考えています。

このため、地域住民の代表の方や環境保護活動に取り組まれている方、また専門的な学識経験を有する方などで構成する「はりまや町一宮線(はりまや工区)まちづくり協議会」を設立することとしました。

このまちづくり協議会においては、はりまや工区の道路整備の方向性や、希少動植物の保全や水辺の活用などについてご協議していただき、工事を中断している区間の整備のあり方について、提言をまとめていただきたいと思います。

平成29年6月20日

高知県土木部

